

利根川下流域における言語の動態

Report on Investigation and Research Activities

中井精一

はじめに

本報告は、日本語地域方言に注目し、利根川下流域の言語の歴史的変遷について、江戸・東京の都市形成との関連で考察するものである。

近世期には、東日本に本格的な大都市：江戸が形成され、新たな中央語の発達した時代であった。江戸時代の初頭（1608）に、イエズス会の宣教師ジョアン・ロドリゲスは「日本大文典」を著した。

話し言葉に於ける真実の日本語は、都で公家や貴族の用ゐるものであって、さういふ人々の間に純粹にして正確な言ひ方が保存されて居り、それから遠ざかったものはすべて粗野であり、欠陥であると観得る。

都及び少数の国々、即ち五畿内（山城・大和・河内・和泉・摂津）とその周辺の越前、若狭そりの他少数の国々を除いて、日本の大部分の国においては、開合清燭、即ちアクセントや発音がよろしくなくてすべてそれぞれの国で勝手に訛って正しくない発音をしてゐる。（中略）

三河から日本の涯にいたるまでの東地方では、一般に物言ひが荒く、鋭くて、多くの音節を呑み込んで発音しない。又これらの地方の人々相互の間でなければ理解されない、この地方独特で粗野な語が沢山ある。（「日本大文典」（土井忠生訳）

というふうに当時の地方のことばと中央のことばを記述している。

1603年江戸に幕府が開かれ、上方に対抗できる、あるいは上方に加えての新しいことばの中心が誕生した。

江戸語あるいは関東地域の方言分布を考えようとする場合、言語地図の中で、東西対立のみられるものを、あらかじめ展望しておく必要がある。

国語調査委員会は、明治期に我が国の言語政策立案のため文部省内に設置された組織であるが、その報告である「口語法分布図」では、①～⑤のような、また、戦後に設立された国立国語研究所の「日本語地図」（LAJ）では⑥～⑰のような東西対立がよく知られている。

	(東)		(西)
①動詞の命令形	ミロ		ミヨ・ミイ
②動詞の者便形	ハラッタ		ハロータ・ハルタ
③形容詞の音便形	ヒロクナル		ヒローナル・ヒルーナル

④否定の助動詞	シナイ		セヌ・セン
⑤断定の助動詞	ダ		ジャ・ヤ
⑥煙	ケム・ケブ		ケムリ・ケブリ
⑦茄子	ナス		ナスビ
⑧七日	ナノカ		ナヌカ
⑨居る	イル		オル
⑩借りる	カ Ril・カレル		カル
⑪塩辛い	シヨツパイ		カライ・シオカライ
⑫酸っぱい	スツカイ・スツパイ		スイ・スイイ
⑬薬指	クスリユビ		ベニサシユビ・ベニツケユビ
⑭茸	キノコ		タケ・ミミ・コケ・ナバ・クサビラ
⑮棘	トゲ		ハリ・バラ・クイ・イゲ
⑯陶器	セトモノ		カラツ・カラツモノ
⑰甘藷	サツマイモ		カライモ・リユーキューイモ・トイモ

1 方言分布からみた関東および利根川下流域について

東条操「関東地方の俚言分布」によれば、関東地方の方言語彙の分布は、おおむね「茨城・栃木」、
「千葉」、
「群馬・埼玉・東京・神奈川」の三地域に区分することができ、このうち千葉は、独立することも
あるし、一方他の二地域のいずれかにつく場合もあることが示されている。

千葉が東京側の地域につくということは、すなわち現在の利根川の流路によってほぼ関東が二分
されることを意味し、千葉が茨城側の地域につくということは、とりもなおさず古利根川の流路に
よって関東が二分されることを意味しているということができそうに思える [徳川 1969]。これは
「関東地方域方言事象分布地図」 [大橋 1989] によっても確認されるであろう。したがって、千葉
県域の方言分布の動態が関東地域の言語地理学的に解釈に重要な意義をもつとともに、「利根川」
の有りようが大きく関与するようである。

徳川 (1969) では、関東方言と利根川の有りようについて、

- (1) われわれの調査の結果から、東条の結論を支持するものが、かならずしも多くないように思
われる。
- (2) 川が語の伝播の障害として働く場合はたしかにありそうであるが、これはむしろ少く、川が
一部分伝播経路として働くことの方が多そうである。

というふうに、東条の説における「茨城と栃木」との関連などについては部分的な疑問を呈してい
るが関東方言域の考察に際しては、「利根川の流域」といった視点の重要性を強調している。

また、佐々木英樹 (1997) では、千葉県方言を以下のように分類・報告している。

(関東方言域における千葉県方言)

千葉県方言が東北方言と関連があると思われるもの

- ① 〈くずい、くず〉「口(くち)」[LAJ-115] 千葉県北東部。→〈くずい〉は茨城、福島、岩手の各県に目立つ。〈くず〉は秋田、青森両県に目立つ。
- ② 〈まきめ〉「つむじ」[LAJ-102] 千葉県北東部。→東北地方：青森県津軽地方)を中心に分布。
- ③ 〈つら〉「顔(かお)」[LAJ-106] 千葉県全域。→東北地方(除：山形県・宮城県を中心に)に分布。
- ④ 〈ほーたぶ・ふーたぶ〉類(ほほ) [LAJ-107] 千葉県北東部。→宮城・福島の両県に分布。
- ⑤ 〈したき〉「唾(つばき)」[LAJ・118] 千葉県印旛郡。→福島・宮城の両県を中心に分布。
- ⑥ 〈みずおとし〉「鳩尾(みずおち)」[LAJ・130] 千葉県北東部。→茨城、栃木、群馬、福島(会津地方を除く)以北の東北地方。
- ⑦ 〈すっけー〉類「酸(す)っぱい」[LAJ・41] 千葉県北部は西側を除く全域。→福島県・新潟県以北全域。

(千葉県方言が、東京を含む関東方言と関連があると思われるもの)

- ① 〈まみげ〉「眉毛(まゆげ)」[LAJ・111] 千葉県ほぼ全域。→群馬・埼玉県を中心とする関東方言。
- ② 〈あたりばち〉「播り鉢(すりばち)」[LAJ・162] 千葉県千葉市から夷隅郡大多喜町にいたる7地点。→茨城、群馬、埼玉、東京、神奈川、静岡の都県を中心に分布。
- ③ 〈あらぬか・あらんか〉類「糠殻(もみがら)」[LAJ-171] 千葉県野田市野田、柏市豊町。上総・安房地方に散在。→茨城、栃木、福島(南東部)の各県。
- ④ 〈とーなす〉「南瓜(かぼちゃ)」[LAJ・180] 千葉県北西部(柏市と松戸市を結ぶ線以北)。→東京、埼玉、栃木、群馬の都県を中心に分布。
- ⑤ 〈うっちゃん〉類「捨(す)てる」[LAJ-62] 千葉県全域。→栃木・埼玉・東京・神奈川、静岡県。

千葉県方言が西日本方言と関連があると思われるもの

- ① 〈ほーったば〉「類(ほほ)」[LAJ-107] 千葉県中央部から館山市に至る海岸線。→徳島・高知の両県の海岸線。
- ② 〈べにさしゆび〉類「薬指(くすりゆび)」[LAJ-124] 千葉県香取郡小見川町・山武郡成東町、長生郡長南町、夷隅郡夷隅町、同郡大原町。→西日本全域。
- ③ 〈かんばれ〉類「凍傷(しもやけ)」[LAJ-127] 千葉県香取郡神崎町松崎、成田市寺台。→山口・広島両県の瀬戸内海沿岸。
- ④ 〈むなおち・むなうちず〉類「鳩尾(みずおち)」[LAJ-130] 千葉県山武郡成東町・市原市市津町・夷隅郡勝浦町。→静岡県。その他、近畿、中国、四国の各地方に散在。
- ⑤ 〈ほーせきいと〉「機糸(はたいと)」[LAJ-157] 千葉県北東部(印旛郡印旛村以東)。→岐阜県以西。中国・四国・九州(大分・宮崎県境)の各地方に分布。
- ⑥ 〈きぬわた〉「真綿(まわた)」[LAJ-159] 千葉県柏市豊町。→西日本に散在。東北地方にはな

い。

- ⑦《すくも・すぐも・すもー・すーも》類「粉殻（もみがら）」[LAJ-17] 下総・上総・安房の各地方全般。→東京・神奈川・静岡の都県の太平洋沿岸。近畿地方の日本海沿岸。中国地方全般。愛媛県中央部。
- ⑧《つきやま》「庭園（にわ）」[LAJ:193] 千葉県安房郡白浜町小字島崎。→広島を中心として分布。太平洋沿岸（特に渥美半島から宮崎県まで）。
- ⑨《かみやま》「森（もり）」[LAJ:198] 千葉県夷隅郡大多喜町。→八丈島，沖縄以外は九州のみ。
- ⑩「明るい」意味としての《あかい》[LAJ:29] 千葉県山武郡成東町。→西日本全般。
- 以上のように利根川下流域に関する先行研究をもとに，臨地面接調査の調査項目を選定した。

2 調査について

調査は，第1回：平成12年11月17日～19日，第2回：平成13年3月2日～5日，第3回：平成13年5月30日～6月3日を主とし，平成14年度に補足調査を実施した。

調査地点は，銚子市（外川・新生・唐子・小船木），東庄町（石出・笹川），小見川町（小見川・織幡），佐原市（多田・丁子・大崎・佐原イ・佐原ホ・八筋川・篠原・扇島・加藤津・磯山）であ



る。

調査では、利根川下流域の各教育委員会（銚子市・東庄町・小見川町・佐原市）の協力のもと、富山大学人文学部生（4年次生：樋上慶一郎、市島祐起子、橋本知子。3年次生：小山拓郎、宮下太輔、河越美華、川崎久美子。2年次生：五十嵐祐子、井上瑞子、大森美木、五島奈緒子、小菅優子、新垣啓子、西村春輝、野上麻子）が行った。

調査項目は、利根川下流域の地域特性を考慮し、語彙・語法を70項目、音韻・アクセントを100項目設定したが、ここでは言語地図として提示する40項目のみを記すことにする。

- (1) 塩の味はどんなだと言いますか。
カライ・カレー・シヨッカレー・シヨッパイ・シヨッペー・シオッカレー・シオガライ・シオカライ
- (2) コワイという言葉が疲れた、くたびれたという意味に使いますか。
使う・聞いたことはあるが使わない・使わない
- (3) 空が晴れていていい天気だと言うとき、どう言いますか。
いい天気 ダ・ヤ・ジャ
- (4) あそこに人が「イル」と言いますか。「オル」と言いますか。
イル・オル・アル・エル
- (5) 大根を鍋に入れて、味噌やしょうゆを入れて火にかけます。こうすることを、大根をどうすると言いますか。
ニル・ニツケル・タク・タグ
- (6) お金と引き換えなら「売る」と言うところですが、ただで与えることを物をどうすると言いますか。
ヤル・アゲル・ダス・クレル・クレテヤル・ケル
- (7) 「あずける」という言葉を、子供が淋しがっているからその子供におもちゃを買ってあずける、というふうに使いますか。与えるときにです。
使う・聞いたことはあるが使わない・使わない
- (8) 土（どろ）で作ってかまで焼いたもの、たとえば茶碗や湯のみなどいろいろありますが、全部ひっくるめて何と言いますか。
セトモノ・セトモン・カラツモノ・カラツモン・エマドヤキ・ドロヤキ・ヤキモノ・セトヤキ・カラヤキ
- (9) 茄子のことを何と言いますか。なすですか、なすびですか、それともほかの言い方をしますか。
ナス・ナスビ
- (10) ごく普通の小さい鳥で、よく朝にチュンチュンと鳴きます。
スズメ・ジツクラ・ジジグロ・ドージュグロ・ジャツジグレー・ドースズメ・チンチ・ノキバ・ノキバスズメ・ヌキバ・マスズメ・ニワッコ・ニワスズメ・ニワチンチン
- (11) 魚の皮の上に並んでいる、すきとおった薄い爪のようなものを何と言いますか。
ウロコ・コケラ・コゲラ・コケ・コゲ・オログ・オゲラ・コエラ・コイラ・ハダ
- (12) 煙突からモクモク出てくるものを何と言いますか。

ケムリ・ケブリ・ケム・ケブ・ケモ

- (13) 今日の次の日のことを明日、明日の次の日をあさってと言うと思いますが、ではあさっての次の日を何といいますか。

シアサッテ・ヤナアサッテ・ヤノアサッテ・ヤナサッテ

- (14) 夕方日が沈む頃、この辺りではどのようにあいさつをしますか。

コンバンワ・オシマイナサイ・オシマイデスカ・オバンガタニナリマシタ・オバンニナリマシタ・オバンガタデス・オバンデス

- (15) 日が沈んで、夜暗くなってからでは、この辺りではどのようにあいさつをしますか。

コンバンワ・オシマイナサイマシ・オシマイナー・オシマイデスカ・オバンデス・オバンニナリマシタ

- (16) 「はやく来ればいいのに。」という言い方はどうなりますか。

クレバ・コーバ・キレバ・キロバ

- (17) 「仲良くすればいいのに。」という言い方はどうなりますか。

スレバ・シレバ・シロバ・セバ

- (18) 「100円ほどください。」と、お菓子などをはかってもらう場合、「100円ほど」の部分はどういう言いかたをしますか。

ホド・クライ・グライ・ブリ・ダケ・バカリ

- (19) 「もったいないから皮ごと食べる。」などという場合の「皮ごと」の言いかたはどうなりますか。

ゴト・グチ・グシ・グリ・マデ・ママ

- (20) かまれると危険な、毒のある蛇の仲間です。これの入ったお酒は精力がつくといわれています。ここでは何と呼ばれていますか。

マムシ・クチハビ・クチハメ・クチャメ・クッチャミ・クソヘビ・クチナワ

- (21) 片足でピョンピョンとはねることを何といいますか。

カタアシトビ・ケンケン・アシケンケン・アシコンコン・ハネコンコン・アシコギ・シンゴ

- (22) 小さな布袋の中にあずきや小石を入れたもので、何個か持って投げたり取ったりする遊び道具のことを何といいますか。

オテダマ・オテマ・オテメ・オニシト・オヒトコ・ナアヨ

- (23) 家の裏のことをなんと言いますか。

ウラ・ウラバ・ウシロ・ウシロバ・セド

- (24) 「お墓」のことを「ラント」とか「ラントーバ」などとは言いませんか。

ハカ・オハカ・ラント・ラントバ・ラントーバ・ナント・ナントバ・ナントーバ・サンメー

- (25) 「借りたものを返す」の「返す」のことを「ナス」と言いますか。

ナス・カエス・ケース・モドス・スマス・スメール

- (26) 「金持ちでうらやましい」などと言うことがありますが「うらやましい」ということをここではどう言いますか。

ウラヤマシイ・ケナルイ・ケナリイ・ケンナルイ・ケンナリイ・イイ・アチコイ

- (27) 「あの人は毎晩酒を飲む」と言うときの「酒を」のところは、どのように言いますか。
-

サケヲ・サケー・サキー・サケ・サケバ

- (28) 注意をしたのにその人が間違いを起こしたので「だから、言ったじゃないか」と言うときの「だから」のところはどのように言いますか。

ダカラ・ンダカラ・ソツダカラ・ソツタカラ

- (29) 「少し寒いけれどもがまんしよう」と言うときの「寒いけれども」のところはどのように言いますか。

ケド・ケッド・ケット・ケットモ・キットモ

- (30) 「筆やら紙やらたくさんもらった」と言うときの「筆やら紙やら」のところはどのように言いますか。

ーダノーダノ・ーカラーカラ・ージャラージャラ・ージャラーヲ

- (31) 「朝早く起きる」と言うときの「起きる」は、どのように言いますか。

オキル・オギル・オクル

- (32) 「窓を開ける」と言うときの「開ける」はどうですか。

アケル・アゲル・アクル

- (33) 「足でボールを蹴らない」と言うときの「蹴らない」はどうですか。

ケンネ・ケンネー・ケトバサネー・ケットバサネー

- (34) 「あれを見ろ」と言うときの「見ろ」はどうですか。

ミロ・ミイ・ミイジョ・ミジョ

- (35) 「窓を開けろ」と言うときの「開けろ」はどうですか。

アゲロ・アケエ・アケエジョ・アケジョ

- (36) 「1個100円のリンゴを買った」と言うときの「買った」はどうですか。

カッタ・コータ

- (37) 「この品物は値段が高くて質もよい」というとき「高くて」のところはどのように言いますか。

タゲークテ・タゲクテ・タカクテ・タガクテ

- (38) 「昨日は役場に行かなかった」というとき「行かなかった」のところをどのように言いますか。

イガネガッタ・イガナガッタ・エガナガッタ・イカナカッタ

- (39) 「あんなところ行かなければよかった」というとき「行かなければ」のところをどのように言いますか。

イカナケレ・イガネート・エガネート・イカナケレバ

- (40) 前の晩に雨が降って桜の花がすっかり散ってしまったとします。地面に落ちている花びらを見て「花がチツテイル」といいますか、「チツトル」といいますか、それとも別の言い方をしますか。

チツテ (ツツチャー、ンナー)・チツテル・チツチャツテ・チツテイル

3 調査結果について

調査結果については、「利根川下流域言語動態地図」で報告する。

地点番号	市町村	大字	氏名	性別	年齢	外住歴
1	銚子市	外川1	楠本幸司	男	75	3年
2	銚子市	外川2	石井福松	男	79	なし
3	銚子市	外川3	加瀬かつ子	女	77	4年
4	銚子市	外川4	磯野昭子	女	74	なし
5	銚子市	新生1	水野玉枝	女	77	なし
6	銚子市	新生2	角田きん	女	84	3年
7	銚子市	唐子	潮来あさ	女	83	なし
8	銚子市	小船木1	石井トリ	女	67	なし
9	銚子市	小船木2	木村マサ	女	74	なし
10	銚子市	小舟木3	野中とく	女	71	なし
11	東庄町	石出1	岡野栄治	男	70	なし
12	東庄町	石出2	越川一男	男	70	なし
13	東庄町	石出3	川口一雄	男	70	なし
14	東庄町	石出4	保立和平	男	71	なし
15	東庄町	石出5	清水保三	男	72	なし
16	東庄町	石出6	今津ヨシ江	女	71	なし
17	東庄町	笹川1	岩瀬達雄	男	75	5年
18	東庄町	笹川2	林与四郎	男	78	なし
19	東庄町	笹川3	林誠之助	男	75	8年
20	東庄町	笹川4	越川やす	女	71	1年
21	東庄町	笹川5	石毛ヨシ	女	69	なし
22	小見川町	小見川	高崎浅治	男	66	なし
23	小見川町	織幡	篠塚榮	男	74	なし
24	佐原市	多田1	多田まつ	女	69	なし
25	佐原市	多田2	香取たつ	女	72	なし
26	佐原市	丁子1	篠塚けい	女	72	なし
27	佐原市	丁子2	伊藤チヨ	女	76	なし
28	佐原市	丁子3	池田とよ	女	70	なし
29	佐原市	丁子4	加瀬けい	女	71	なし
30	佐原市	大崎1	宮崎博	男	76	なし
31	佐原市	大崎2	日下部義男	男	77	なし
32	佐原市	大崎3	大木富七	男	72	なし
33	佐原市	大崎4	鈴木栄一	男	74	なし
34	佐原市	大崎5	宮崎キミ子	女	73	なし
35	佐原市	大崎6	鈴木さく	女	70	なし
36	佐原市	大崎7	日下部とく	女	71	なし
37	佐原市	佐原イ1	及川正七	男	83	なし
38	佐原市	佐原イ2	石井順太郎	男	86	なし
39	佐原市	佐原イ3	中西トミ	女	77	なし
40	佐原市	佐原イ4	円城寺静子	女	76	なし
41	佐原市	佐原木1	白鳥たけ	女	81	なし
42	佐原市	佐原木2	横田実	男	80	なし
43	佐原市	佐原木3	白鳥よね	女	77	なし
44	佐原市	佐原木4	伊能たけ	女	81	なし
45	佐原市	八筋川1	大堀貞助	男	72	なし
46	佐原市	八筋川2	宮本俊作	男	68	なし
47	佐原市	八筋川3	諸星まき	女	83	17年
48	佐原市	八筋川4	平野志も	女	78	なし
49	佐原市	篠原1	鈴木信義	男	78	5年
50	佐原市	篠原2	久保木四郎	男	73	なし
51	佐原市	篠原3	大崎利男	男	74	なし
52	佐原市	篠原4	本宮なつ	女	74	なし
53	佐原市	篠原5	林三枝	女	74	なし
54	佐原市	扇島1	増田克己	男	76	なし
55	佐原市	扇島2	大塚登	男	73	なし
56	佐原市	加藤津	本宮清作	男	71	なし
57	佐原市	磯山	小倉健太郎	男	77	なし



「利根川下流域言語動態地図」は、表計算ソフトのエクセルを用いてデータベース化し、GISソフト：MANDARAを利用して言語地図に描画した。作成においては、1：西日本言語との関連、2：東京語との関連、3：東日本言語との関連、といった利根川下流域の地域特性に関わる視点を踏まえ、解釈地図である「利根川下流域言語動態地図」を完成させた。

なお、データ入力については、調査に関わった富山大学人文学部中井ゼミの学生が担当し、MANDARAを用いての「利根川下流域言語動態地図」作成は、小山拓郎（富山大学大学院生）が担当した。

参考文献

- 土井忠生（訳）『日本大文典』（三省堂、1955年）
（関東方言）
- 東条 操 関東地方の方言分布（国語教育20—11、1935年）
金田一春彦 関東地方に於けるアクセントの音韻分布（日本語のアクセント、1942年）
秋永一枝 利根川下流域のアクセント（人類科学20、1968年）
徳川宗賢 利根川流域における単語の分布（人類科学21、1969年）
加藤正信ほか 利根川流域の音韻（人類科学22、1970年）
大橋勝男 関東地方の方言についての方言地理学的研究(1)～(10)（新潟大教育学部紀要11・1～20、1970～1979年）
秋永一枝ら 利根川上・中流域のアクセント（利根川—自然・文化・社会—、1971年）
飯豊毅一ら 利根川流域方言の文法（利根川—自然・文化・社会—、1971年）
井上史雄ら 利根川流域の語の分布（利根川—自然・文化・社会—、1971年）
大橋勝男 音声面から見た関東地方の方言分派—とくに東西対立分布相に注目して—（方言研究年報16、1973年）
W・A・グロータース 日本言語地図（LAJ）と関東地方方言事象分布図（DAK）との比較—方言地理学の方法についての考察—（日本方言研究会第26回発表原稿集、1978年）
大橋勝男 関東域における[KWA][GWA]音の分布とその解釈（国語教育研究（広島大）26上、1980年）
大橋勝男 関東地方方言分派論（方言学論叢I方言研究の推進、1981年）
グロータース 千葉県アクセントの言語地理学的研究（国語学37、1959年）
佐々木英樹『千葉県のことば』（明治書院、1997年）
（方言の東西対立）
- 黒田敏一 東西方言の分界線に就いて（国語教育24—4、1939年）
寺川喜四男 東西話論序説（国語運動8—2、1944年）
牛山初男 語法上より見たる東西方言の境界線について（国語学6、1953年）
金田一春彦 東西両アクセントのちがいが出来るまで（文学22—8、1954年）
大野 晋 日本の東部と西部の違い（人類科学15、1963年）
金田一春彦 アクセントの分布と日本の東と西（解釈と鑑賞333、1963年）
大野 晋 古代の言語分布と日本の東と西（解釈と鑑賞333、1963年）
都竹通年雄 東西両方言の違いはどうしてできたか（言語生活237、1971年）
金田一春彦 東西方言の違いの成立について（言語生活241、1971年）
徳川宗賢 東西のことば争い（日本語講座日本語の歴史6、1977年）
馬瀬良雄 東西両方言の対立（岩波講座日本語方言11、1977年）
徳川宗賢 「日本言語地図」から見た方言の東西対立・概観（現代方言学の課題1、1983年）
井上史雄 方言の構造 関西弁と東京弁（伝統と現代45、1977年）
真田信治 基礎講座・方言(1)～(4)方言の退化速度、方言分布から探る「妖怪名」の語源、東西対立の動態、新しい方言の発生と伝播過程（国語教育6—1～6—4、1986年）

（富山大学人文学部、国立歴史民俗博物館共同研究員）

（2005年1月17日受理、2005年2月8日審査終了）

付 図

















































